

科目名称	生活機器デザイン			授業コード	10031233
担当教員	向井 昌幸				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2019	開講学期	前期
関連資格					
履修制限等					
到達目標(目的含む)	受講者は、多様な「ヒューマンファクター」を制作活動のためのデザインの方法論、或いはデザインソースとして理解し、活用できるような思考方法と表現手法のノウハウを身につける。				
授業の概要	人間主導なものの作りのための、特にアイデア展開の思考と表現に欠かせない要素として「ヒューマンファクター」を取り上げ、様々な角度から明示していく。メーカーのデザイン部門での業務経験を活かし、プロダクトに応用可能な要素を重点的に取り上げ、その基本的な知識と手法等について具体的に講義する。				
授業計画	1:オリエンテーション：講義の全体像とヒューマンファクターについての説明 2:伝えるための表現1：言葉とフォントについて 3:伝えるための表現2：スケッチの表現力について 4:伝えるための表現3：触覚コミュニケーションについて 5:伝えるための表現4：記号について 6:伝えるための表現5：モノの価値は如何に見出されたか 7:伝えるための工夫1：『まとめ』について 8:伝えるための工夫2：『形の無い何か』の表現について 9:伝えるための工夫3：〇〇の様に見えるプロダクトについて 10:デザインへの応用1：見立てとスタイリングについて 11:デザインへの応用2：感情移入について 12:デザインへの応用3：デザインのプロセスについて 13:デザインへの応用4：バリエーションの必要性について 14:デザインへの応用5：バリエーションを広く展開するために 15:まとめ講義:これからの価値について				
授業時間外学習	受講生は自身の周囲で見られる「情報伝達のための様々な表現」や「わかり易いコミュニケーションのための工夫」について普段から注目し、図書館の文献を用いてデザイン的な背景を調べておくこと。				
評価方法	3回のレポート課題の合計点で評価する。課題を全て提出しない場合、また出席が10回に満たない場合はE評価となる。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	2・3回目のレポート出題時に、1・2回目のレポートの評価についての概要と記述視点の傾向について、以降のレポート作成の参考情報として提示する。				
使用テキスト					
参考テキスト・URL	「エモーショナル・デザイン」 ドナルド・A・ノーマン 新曜社				
各自準備物					
実習費					
その他					